

1 現状と課題

■自施設の現状

理念

- ・すべての人々の人権を尊重します。
- ・障害がある人々やそのご家族から信頼される医療を提供します。
- ・障害がある人々のための高度で先進的なリハビリテーション医療を追及します。

基本方針

- ・患者さん本位の医療を実践します。
- ・インフォームド・コンセントを徹底し安全で開かれた医療を提供します。
- ・重度・重複障害がある人々を支援します。
- ・医療と福祉の連携により一層の社会貢献を追及します。
- ・絶えず自己研鑽し、効率的な病院経営を目指します。

届出入院基本料

- ・一般病棟入院基本料 15 : 1
- ・障害者施設入院基本料 10 : 1

特定入院料

- ・回復期リハビリテーション病棟
- ・小児入院医療管理料

平均在院日数 70.3日

稼働率 80.9%

手術件数 443件 (内整形外科 378件 (85.4%))

自施設の特徴

昭和48年の開設以来、脊髄損傷、脳外傷、骨・関節疾患、神経難病等の治療と訓練を行っている。平成28年度末に七沢リハビリテーション病院脳血管センターと統合し新たに脳血管障害も対象とし、早期社会復帰に向けたリハビリテーション医療を行っている。

- ・急性期機能として、脊椎・脊髄損傷、褥瘡や変形性関節症、関節リウマチなどの重度の関節症に対する手術とリハビリテーションの実施
- ・回復期機能として、神経難病、高次脳機能障害、脳血管障害等に関するリハビリテーションの実施
- ・慢性期機能として、重度重複障害児・者の方を対象に障害特性に合わせた生活支援、医療的ケアを提供し医療と福祉の総合的支援を行っている。(七沢療育園(医療型障害児入所施設・療養介護施設))

■自施設の課題

県央地域は、人口は年々減少するが、65歳以上の高齢者は年々増え続け、2015年比で2025年は1.12倍、特に75歳以上1.63倍、患者数は1.25倍に増加し、65歳以上、75歳以上の患者は増え続け、65歳未満の患者は年々減少する。

当院では、整形外科の変形性股関節の手術を多く行っており、高齢化により患者及び手術件数等の増が見込まれることから、急性期機能が現状数では足りない可能性があるため、急性期機能病棟、回復期機能病棟の在り方を検討する必要がある。

2 今後の方針

■地域において今後担うべき役割

県立のリハビリテーション病院として、地域の一般病院等で受入れられない頸椎・脊椎損傷者のリハビリテーション、手術も必要な褥瘡や変形性股関節症等の患者への対応を引続き維持していく。

- ・脳卒中を対象とする回復期リハビリテーション病棟は、民間病院の回復期リハビリテーション病棟の増加に伴い、現時点のニーズに合わせて縮小した。（平成28年度100床→平成29年度60床程度）対象患者は、県央地域の患者にプラスして、若年性の脳血管疾患で就労支援が必要な患者など民間の回復期病棟との機能の棲み分けを行っていく。
- ・その他、地域で治療することが難しい障害者医療も引き続き提供していく。

■今後持つべき病床機能

高齢化が進む中で、手術の必要がある患者も増加傾向が見込まれるため、現在の急性期病棟は一定程度維持していく必要がある。また、リハビリテーションの必要性が増すことが想定されることから、回復期機能を提供する病棟も併せて検討する必要がある。

■その他見直すべき点

今後、交通事故、労働災害が減少することが想定されることから、脊髄損傷、神経難病を中心に入院を受け入れている障害者病棟の病床規模を検討する必要がある。

平成29年12月の新病院棟移転に伴い病棟数が、50床4病棟から40床5病棟に変更になり、急性期機能病棟、回復期機能病棟の在り方を検討する必要がある。